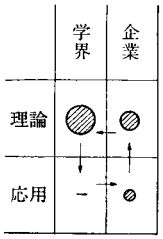
「学会の在り方」について

原野秀永・司馬正次・横山勝義

去る6月31日，北海道で春季発表会が開催されたが，その席上，首題のペーパー・フェアを開き，熱心な会員の参加を得て，活発な討論がかわされた．その報告を，その時に実施したアンケートの結果とあわせて，以下に記述する．議論を引き出すために用意した資料は，アブストラクトに掲載したが，かいつまんで言うと，最近の日本経済は幾多の難問題をかかえ，ORを一番必要とする時代になったにもかかわらず，OR自身が理論に走りすぎ応用への努力を欠いたため，せっかくのチャンスにニーズに対応できず，はなはだ残念であるとは，衆目の見るところである．

また現在日本工学会傘下の学会の中で，最大は機械学会の38,000人，最小がわがOR学会の2,000人．（会費9,000円は最高である．）

こういった内外の状態を考察すると，従来ともすれば学会の運営が，過去の惰性に流れて，会員のための学会であることを忘却していたことを，この辺で反省してみる必要があろう，というものであった．



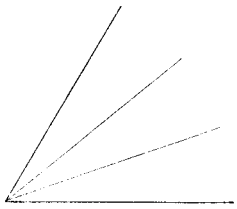
原野他2人が，ペーパー・フェアにのぞむ以前に，討議した結論は，あとに出てくる8つの設問によるアンケートを試みようとすることと上図のマトリックスを考えたこととである．図の丸の大きさは，OR活動の現状をあらわし，学問的な理論は大いに進められたが，応用の面が立ち遅れていることを示す．企業サイドでも，研究所等で行なわれた理論的な活動が多く，ORの最終目標ともいうべき「実施化」については，まだまだ不満足である．理想としては，矢印の示すサイクル——学界での理論が応用面にブレークダウンされ，それが企業の中にとり入れられ，さらに進んで，そういった実務体験の中から新しい問題が派生してき，逆に学界にフィードバックされ，新しい理論がその中から生まれてくる——が描かれることだと思うが，いまのところそのような気配は微塵もないのが残念である．

ペーパー・フェアの場での討論は，活発かつ相当に激

フォーラム

数理パズルを楽しもう (11)

問題　よく知られているように，定規とコンパスだけで勝手な角を三等分するのは不可能です．ところが，市販の定規には，ふつうセンチやミリの目盛りがついています．そこで，この目盛りつきの定規とコンパスだけを使って，勝手な角を三等分することにしました．何か，うまい方法はあるでしょうか．



〔8月号(489ページ)の解答〕長方形をABCDとしたとき，横の長さが縦の長さの2倍以内であれば図aの方法で，また4倍以内であれば図bの方法で，それぞれ正方形に組み替えられる〔1〕．辺BCの延長上に，点EをBE＝BAのようにとり，ECを直径とする円が辺BAの延長上で交わる点をFとする．BE・BC＝BF^2はよく知られた定理である．図aではBF＝BGのようにして点Gを定め，点Cから線分BGに垂線CHをおろす．

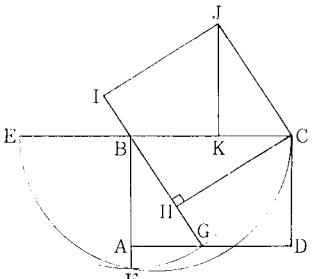


図 a

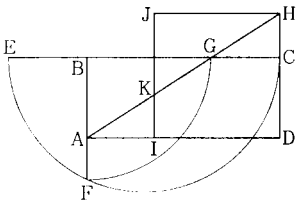


図 b

CHを一辺とする正方形CHIJをつくれば，三角形ABGは三角形KJCに移り，四角形GHCDは四角形BIJKに移る．また図bでは，点Gを辺BC上にBF＝BGのように定め，線分AGと線分DCをそれぞれ延長して交点Hを求める．HDを一辺とする正方形HDIJをつくれば，三角形AKIは三角形GHCに移り，三角形ABGは三角形KJHにずれるようにして移る．

〔1〕 Kraitchik, M., *Mathematical Recreations*; Norton, New York, 1942.（邦訳）金沢養，100万人のパズル，白揚社，1968.

（中村義作）

* 図bの解は東芝の大重啓志氏からも寄せられました．

FORUM

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．